

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム いわいずみ		
所在地	〒027-0508 岩手県下閉伊郡岩泉町尼願字下坪41-2		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日頃から地域住民と密着し交流を図っており、ホームと地域との交流の場になるように、認知症カフェを開催し認知症の方への対応等地域の方々や認知症を持つご家族に理解して頂くためミニ勉強会を開催し、行政と連携を持ち関わりが深まって会を重ねる度に心待ちにしている方もいる。また、ホームは母体から離れている事で日頃から大雨や地震等の災害時の際、地域住民が気にかけて駆けつけて頂ける関係にもなっている。そして、令和元年11月に自治会と災害時の応援協定を締結したことで、自治会、消防団、婦人防火クラブ、近隣住民等が警報が発令になった事で駆けつけて頂ける支援体制も整っており、避難誘導を協力していただき安心して生活ができています。また、火災の際も自治会長と消防団の方に緊急連絡に登録いただき連絡体制もできており地域と密着しているホームである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑の山に囲まれた住宅地に位置する家庭的な雰囲気グループホームである。運営推進会議で、委員を始め家族や職員と時間をかけて話合って作成した理念に基づき、利用者への声かけや寄り添いを大切に「にっこりケア」をモットーに支援に取り組んでいる。地域住民との信頼協力関係が出来ており、災害時の協力について自治会と協定を結び訓練も共同で実施している。職員5名が防災士の資格をとるなど災害への問題意識が高く、避難場所の確保や食糧・介護用品の備蓄も万全である。町内で唯一開催されている認知症カフェによる地域の方々との交流、地域包括支援センターと一緒に開催している認知症のミニ勉強会を通じた啓発にも熱心に取り組んでいる。毎週2回ミニドライブに出かけたり、誕生会のメニューやおやつを工夫するなど、コロナ禍にあっても利用者の充実した生活の支援に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務会議等職員全員で情報共有し意識の統一を図り意見交換し実践している。	開設当初、運営推進会議の委員や家族、職員みんなで時間をかけて話し合い、それぞれの思いを込めた理念とした。皆が笑顔で過ごせるよう、一人一人の利用者と毎朝挨拶を交わすことから一日が始まり、理念に掲げる「地域住民との共生」「喜びや悲しみを共感できる日常生活」を意識した支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やグループホームの行事に参加いただいたり、認知症カフェや百歳体操で入居者と地域住民の方々と共に参加し交流している。	自治会との災害時の協力体制、地域や事業所の行事への双方の参加、散歩時の声がけや野菜の差し入れなど地域の一員として、日常に溶け込んだ交流がなされている。月一回公民館で開催される認知症カフェや地域包括支援センターと交互に講師を務めている認知症のミニ勉強会には、町内全域からの参加があり地域に根差したものとなっている。	町内全世帯に配置されているテレビ電話「ピーちゃんねっと」を通じ、ミニ勉強会の内容など、事業所の持っている介護に関する知識や情報を発信することにより、より一層地域との絆を強められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを月一回開催し認知症について情報や認知症の対応等ミニ勉強会で理解いただけるよう交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター職員や自治会、消防団、ご家族や近隣住民に参加いただき資料を作成し意見交換、情報交換ができておりホームの改善点など積極的に意見を伺ってサービスに取り入れている。	民生委員・自治会長・消防団長・近隣住民・家族・町(地域包括支援センター)室長が委員となり、入居者の状況等を報告し、意見をいただいたり情報交換をしている。近隣住民の委員から、災害等の緊急時用に玄関にサイレン付き赤色灯設置の提案があり、近々具体化することになっている。今年はコロナ禍のため、町(地域包括支援センター)の指導を得ながらその都度開催の是非を判断してきた。今後は、年度末に向け書面開催も交えながら開催し、引き続き委員から意見・提案をいただくこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議と月一回の認知症カフェや不安定な入居者の専門病院の受診とパイプ役や相談等協力関係を築いている。	要介護認定申請手続きの助言指導や生活保護受給者の情報交換、認知症カフェへの協力など、町との連携が取れている。毎週書類を役場窓口に取りに行った時や電話やメールでの連絡も頻繁に行い、協力関係ができています。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関は防犯の為に施錠しているが日中は施錠せず自由に外に出られ畑や散歩に出掛けられている。スピーチロックについては、だめな理由や待ってもらう理由を伝えて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束防止の指針を作成し、委員会に各事業所の管理者が出席し、事業所の勉強会で職員に周知・共有している。転倒の可能性が高い利用者5人に家族の同意を得てセンサーを利用している。家族は事業所でのケアに理解を示してくれている。駐在所の警察官から不審者への対応方法を以前教わっている。施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会に参加し職員で共有し注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している入居者があり関係者と連絡を密にし要望を聞き入れてスムーズに活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	遠方のご家族には電話で説明し送付して質問や疑問等無いように支援し、ホームに来所し契約される方にも十分に説明している。退所後の家族からの今後の相談等の対応もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、ケアプラン等で来所されたり、電話での会話の中でご家族等にご意見、要望を聞き中々少ない要望ではあるが、それらを運営に反映させている。	利用者の思いや意向は、普段の会話や表情、行動から把握している。家族からは面会や運営推進会議で来所の際に、遠方の家族は電話で要望等を聴いている。年4回発行している広報紙の通信欄に利用者の状況や支援の方法をそれぞれ記載し、家族からの要望等を伺っている。管理者は、家族から意見・苦情があれば、もっと励みになるのだがと、振り返っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のほほえみ会議に参加し業務収支会議の内容をホームの業務会議で報告し意見交換し個人面談での要望や会議でも確認し反映できている。	業務中やカンファレンスの時に要望意見を聞いている。利用者に合わせて作られたキッチンの高さの調整、床の張替え、ポータブルトイレのL字手すりの設置、電気毛布のコントロールスイッチの改良など、多くの意見・提案があり、順次具体化されている。勤務シフト等に関する要望は、その都度皆で調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前もって希望休を聞き優先的に取得し、突然の有休も職員で補っている。各自得意とする能力を引き出せるような色々な担当をもって意欲的仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に合わせ新人研修や中途採用者の研修等機会を設け研修できている。ファーストステップ研修や認知症の専門の研修の実践者研修・リーダー研修等も受けられるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回の法人6ホームのホーム長会議で意見交換したり、行事等同日に設定し職員同士情報交換し交流を図っている。また、沿岸北ブロックのホームの会議も不定期だが情報交換しネットワークづくりができている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ご家族や本人に不安なことや疑問等を聞き安心して生活ができるよう職員間で情報共有しケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に不安なことや疑問等を聞き取りケアプランに取り入れ連絡等も密にし不安を取り除いて安心して生活ができる関係に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で随時今必要としていることを確認し、まず対応してみるを実践し、申し送り等で情報共有し柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえや洗濯物かたづけ、一緒に畑仕事等生活歴の中での出来ることをやっていたいっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話での会話や玄関先での面会等は絶えることがなく状況を報告し時には面会時や電話の会話の間に入りパイプ役をし関係が継続できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会に来ていただいたり、地域の行事に参加したり、ドライブで自宅や学校、お店に向いて関係が途切れないように支援している。	コロナ禍のため、家族や友人知人の訪問が無くなり、認知症カフェに来ていた友人も来なくなった。これまで遠方の家族は年1,2回だが、町内にいる家族は月1度は面会に来ていた。今は、町内在住の家族とは町が全世帯に用意したテレビ電話「ぴーちゃんねっと」で話している。新たな馴染みとして、今も毎週1回訪れるパンの訪問販売が馴染みとなり、利用者は楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が分からないことは聞いたり、教えたりと孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了したご家族が病院に入院したその後の相談にも対応しており、これまでの関係性を継続し支援している。		

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで一人ひとりの思いや希望や家族の意向を把握し、病気で食べられない入居者様には特別なメニューを提供し支援している。	日常生活のなかでの職員と利用者との会話や利用者同士の会話・行動から、利用者の思いや意向を推察し個々の利用者の立場に立ち、共感し支援している。以前、「よれよれになっている」から利用者が服を洗濯に出さないのではと利用者の身になって考え、新しい服を家族に持ってきてもらったら着替えをするようになった方もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスで生活歴を共有し、本人との会話の中で馴染みのものを把握して、ご家族からも確認し把握できている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	病気や体調不良時も車イスや押し車、杖などを現状に合ったものを使用でき、対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等、見直しを現状に沿ってご家族にも相談し、入居者の困っていることに気づき、プランに反映している。	居室担当が、普段の生活状況やケース記録から利用者の意向、家族の声を把握したうえで評価表を作成し、カンファレンスで出された他の職員の意見も盛り込み、3か月毎にケアマネが介護計画を作成している。家族には、面会に来所した際などに説明している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの見直しや日々の生活の中で気づいたことは、パソコン入力し、申し送り等で把握できている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンス等で職員間で情報を共有し、継続出来る支援や見直し等は、その都度話し合い柔軟に共有出来ている。			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェでは、Pちゃんネットやチラシ等でお知らせし、地域の方々に参加いただき、入居者も昔話や昔の遊びで楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同伴受診し、日常の様子を説明し、適切に支援している。定期的に訪問歯科診療を受け、口腔内を清潔にできている。訪問診療が始まり、定期的な医師の受診もできている。	入居によるかかりつけ医の変更はない。月1回の訪問診療(済生会岩泉病院)受診が7名、家族が付き添った他の医療機関での受診者は2名となっている。専門診療科(眼科)への通院は、職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の状態を受診時看護師等相談し医師に繋げスムーズに治療できている。訪問診療では事前に打ち合わせをし、服薬等も個別の相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師とも連携を取り、入院不可の入居者に対する対応や、入院せず点滴等で治療できるよう、病院との連携も取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた話し合いは、入居時や早い段階からご家族に説明し、次に続く支援ができている。体調変化が見られた場合には、ご家族に説明し意向を伺いながら支援している。	看取り対応をしていないことに併せ重度化した際の対応について、入居時に利用者・家族に説明している。体調が変化してきた場合には、医師の判断や家族の意向を改めて確認し、入院又は特別養護老人ホームへの入所手続きを進めながら、事業所で対応可能な範囲で介護に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に講習会を開催し、急変時の対応に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や町の防災訓練に参加し、自治会とも災害時の協定を結んだことで、連絡体制は整っている。	火災訓練は年2回、うち消防の立合いと夜間想定をそれぞれ1回、水害訓練は地区と協同で1回行っている。昨年11月に自治会と災害時の協定を締結し、何かあればすぐに駆け付けてくれる協力体制が出来ている。運営推進会議委員の近隣の方の提案で、玄関にサイレン付きの赤色灯を設置することになっている。食糧2日分、発電機・ストーブ・介護用品・ガスボンベが備蓄されている。岩泉町の費用負担で職員5名が計画的に防災士の資格を取得している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、誇りやプライバシーに配慮し、言葉使いに気をつけて対応している。	居室への入室、トイレ誘導や衣服の着替え、シーツ交換など個々の利用者に合わせ「失礼します」「大丈夫ですか」「できますか」など、声がけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や食事等、自己決定できる声がけをし、思いや願いをくみ取り、パン屋さんの購入も支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中居室で過ごしたい人、ホールでTVを見たい人、お昼寝をしたい入居者に対しても、一人ひとりの希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪は本人の希望も入れ、散髪している。朝の整容も職員が支援したり、自分で行える方は自分でい、身だしなみができるよう支援している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では入居者の好みのものを聞き、メニューに取り入れ工夫している。準備等できる方にはお手伝い頂き、食器拭き等も手伝っていただいている。歯のない方やむせ込みが見られる方への食事でも工夫している。	日常会話のなかで利用者が話す「こんなもの食べたいな」を聞き逃すことなく献立に取り入れ職員が調理している。今までは利用者と一緒に買い出しに出掛けていたが、今年はコロナ禍のため断念している。4人の利用者が野菜の皮むきなど手伝っている。敬老会、正月料理などの行事食や小豆ばつとやへちよこだんご・ひゅうずの郷土食、誕生会の希望の献立、週1回来るパン屋の訪問販売を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせ込む入居者には刻み食やお粥を提供し、食事前のお茶や10時・14時のお茶を摂取頂き、水分量をパソコン入力し、少ない入居者には自分の好きなものをご家族から頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアし、口腔指導の注意事項を把握し、その人に合ったケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人の排泄パターンをチェックし、声がけにも気をつけ、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄の自立者1名、布パンツ1名、リハビリパンツ7名、夜間には、ポータブルトイレを5名が利用している。夜間にトイレ誘導はせず、転倒防止センサーにより確認している。パットの汚れはその都度確認している。排泄チェック表を排便・排尿の誘導に生かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便を確認し、みそ汁にオリーブオイルを混ぜスムーズな排便を促したり、リハビリ体操・ラジオ体操し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	体調に合わせての入浴もあるが、気の合う入居者同士や一人で入浴したい方等個別に対応し、菖蒲湯や入浴剤を使用しリラックスできるよう支援している。	月～土曜日の午前中に、利用者は週2、3回入浴している。春の菖蒲湯、夏にはすだれで露天風呂、入浴剤での温泉演出、気の合った二人での入浴などで楽しんでいる。入浴を渋る利用者へは最初の声がけを大切にし、利用者の様子により足湯や清拭、翌日の入浴などと工夫しながら弾力的に対応している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置は本人の希望に合わせて設置し、寒い時には電気毛布やエアコンを使用し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師とも相談し、個々に服薬出来ており、職員間で情報共有し理解し、服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの花見ドライブ、紅葉ドライブ、三陸鉄道巡り、さくらんぼ狩り、ホーム内での運動会、お楽しみ会でのすいか割り等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で最近はお出かけが出来ないが、季節ごとの花見ドライブ、紅葉ドライブ、三陸鉄道巡り、さくらんぼ狩り、ホーム内での運動会、お楽しみ会でのすいか割り等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	お花見、サクラんぼ狩り、ブルーベリー狩り、紅葉狩りなど、季節ごとに行楽地に出かけるほか、週に2回ほどは「今日はいい天気だから」とミニドライブに出かけている。玄関前での外気浴のほか、近所の家の花を見に行ったり、道路沿いにあるベンチまで散歩して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に少額のお小遣いを届けて頂き、自分で管理している入居者もいる。外出時やパン屋さん来所時には、自分の財布から支払えるよう支援し、お金を所持していない入居者はホームで立て替え、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より定期的に電話があり、本人が会話出来たり、PちゃんネットでTV電話での会話が出来よう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所が分からない入居者の為に分かりやすく表示し、居室の入り口に暖簾やカーテンを使用し、居心地よく過ごせるよう支援している。	建物の中心に食堂・居間・たたみスペースがありそれを囲むように居室がある。季節の花や利用者が作製した貼絵など季節感のある装飾やゆっくり座れるソファがあり、利用者がくつろげる共用スペースとなっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で気の合う入居者同士、ホールや玄関で過ごせるよう、イスやベンチ等を配置し、居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族や本人と相談しながら、使い慣れた物をご持参いただいている。本人は居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、洗面台・ベッド・筆筒・テレビ端子・ナースコール・時計・カレンダー衣装ケースが備え付けられている。入口には居室ごとに模様が異なる防災加工された暖簾、クローバーやハート型の避難確認用を兼ねた大きな名札がある。観葉植物や家族写真テレビなど好みのもので居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、トイレや居室の場所が分からない入居者の為に分かりやすく表示し、下足も本人が迷うことなく使用できるよう工夫している。		